

モスクワ音楽院特別演奏コース Q&A

【 コースについて 】

Q1. モスクワ音楽院特別演奏コースについて、具体的に教えてください。

A1. 本コースは、世界の三大音楽院のひとつである「チャイコフスキー記念ロシア国立モスクワ音楽院」が世界で初めてロシア国外に開設した演奏家養成コースです。現在は、ピアノ専修とヴァイオリン専修があります。くらしき作陽大学は、モスクワ音楽院と提携をしている日本で唯一の大学です。この提携により、モスクワ音楽院のカリキュラムに沿った徹底した指導が行われています。実技の指導にあたるのはもちろんモスクワ音楽院派遣のロシア人教員です。本コースの学生は、モスクワ音楽院 140 年の伝統に培われたモスクワ・メソッドを、日本国内で総合的に学習できるという恵まれた環境にあります。

Q2. モスクワ・メソッドとは何ですか？

A2. 1866 年のモスクワ音楽院創設以来、チャイコフスキーをはじめとする歴史的な音楽家・指導者らによって培われてきた総合的な指導法を指しています。プロフェッショナルな演奏家・音楽家の養成に向け、学生ひとりひとりの個性をしっかりと受け止め、最良のかたちで開花させることを目的としており、世界的に高く評価されているものです。主要国際コンクール上位入賞者の多くがロシア・旧ソ連圏出身であること、クラシックの来日アーティストの多くがロシア系であるといった事実は、モスクワ・メソッドをはじめとするロシアの音楽教育がいかに重要であるかを証明しています。

また、モスクワ音楽院には、共通の価値観・指導法及び論理体系をもつグループ（著名な指導者と彼の弟子たちを核に形成された流派）である「学派」が複数存在しています。

Q3. 実際のカリキュラム内容を教えてください。

A3. まず、モスクワ音楽院派遣教員が担当する科目を、専修ごとにご紹介します。

ピアノ専修： 実技個人レッスン(60 分×週 2 回)、室内楽、伴奏法、ピアノ教授法、総合音楽理論

ヴァイオリン専修： 実技個人レッスン(60 分×週 2 回)、室内楽、弦楽四重奏、総合音楽理論

これらの科目の受講時には、専属のロシア語通訳によるサポートがあるので安心です。

(注:実技個人レッスンは 3, 4 年時通訳なし)

また、ピアノ・ヴァイオリン専修の共通科目には、ロシア語、楽曲研究、ロシア史、西洋文化史、ロシア音楽史、現代音楽論、現代ロシア音楽文化などがあります。このうちロシア語は、ロシア国立プーシキン記念ロシア語大学から派遣された語学専門のネイティブ教師が担当します。ロシア語以外の共通科目は、主にくらしき作陽大学の日本人教員が担当です。

Q4. ロシア人の先生について教えてください。

A4. Q1～3の回答にもあるように、本コースで指導にあたるロシア人教員は、モスクワ音楽院の推薦によって派遣されています。

モスクワ音楽院派遣教員は、全員がモスクワ音楽院出身者で、有名国際コンクール上位入賞、またはそれに準じた経歴を持ち、指導者としてのみならず、国際的な演奏家としての顔も持っています。

このように高名な先生方ですが、普段はとても気さくで親切です。本コースでの指導期間中は倉敷市内のアパートに滞在しているため、学生にとっても身近な存在です。第一線で活躍するロシア人の先生方と生活を共にできるということは、大都会ではなかなか味わえない倉敷ならではの貴重な体験といえるでしょう。

なお、ロシア語はプーシキン大学の推薦教員が担当しています。(Q8 参照)

Q5. 入学前にレッスンを受けてみたいのですが？

A5. 本コースの受験希望者は、春・夏・秋・冬の受験講習会でロシア人教員によるレッスンを受講できます。また、講習会の期間以外でも、随時体験レッスンを受け付けています。この他、日本各地で行われる進学説明会や高校訪問の場で公開マスタークラスを受講していただける可能性もあります。詳しくは MSC サポートセンター(0120-401-490)までお問い合わせください。

Q6. モスクワ音楽院派遣教員の直接指導となると、学費が高そうなイメージなのですが？

A6. 本コース所在地である倉敷市は生活費・住居費などが安いこともあり、在学中4年間の総経費は都市部の大学に比べて格段にリーズナブルです。さらに奨学金制度や特待生制度も整っていますので、安心して修学可能です。

Q7. 入試科目を教えてください。

A7. 推薦入試、一般入試ともに、実技・聴音・英語・面接の4科目です。ただし、本コースでは特に実技が重視されます。実技の曲目は、下記の通りです。

ピアノ専修：(A) J. S. Bach の平均律曲集より任意の前奏曲とフーガ

(B) 古典派のピアノソナタの第1楽章または終楽章(ただし緩徐楽章は除く)

(C) 古典から現代までの小品以外の作品1曲

※例えば、ショパン「バラード」「スケルツォ」、リスト「ハンガリー狂詩曲」「メフィストワルツ」、ロマン派以降のピアノソナタからひとつの楽章(緩徐楽章を除く)等

(D) 技巧的な作品(練習曲など) 1曲

ヴァイオリン専修：(A) 練習曲2曲

① 右手の技術を示す練習曲(スラー、デタシェ、スピッカートなど)

② 左手の技術を示す練習曲(スケール、重音など)

例えば、Rode の24のカプリース、R. Kreutzer、Paganini 等

(B) 下記の①、②からどちらか選択

- ① ヴァイオリン協奏曲より第 1、または第 2、3 楽章（試験時には伴奏無し）
例えば、Mozart、Saint-Saens（第 3 番）、Wieniawski（第 2 番）、Mendelssohn、Tchaikovsky、
Prokofiev、Khachaturian 等
 - ② J. S. Bach の無伴奏ヴァイオリンソナタから 2 つの楽章
（緩徐楽章と速いテンポの楽章）
- (C) ロシアを含む西欧の作曲家の小品 1 曲

Q8. ロシア語の授業が必修とのことですが、ついていけるか不安です。

A8. ロシア語の授業は、プーシキン大学から派遣されるネイティブ教師が担当し、基本的に授業はすべてロシア語で行われます。ただし、心配は無用です。担当教師は外国人へのロシア語指導のプロ中のプロであり、授業は本コース学生のために作成された世界初の教科書「音楽家のためのロシア語」に沿って進められるため、音楽家にとって必要なロシア語知識を効率よく身につけられるシステムとなっています。その結果、入学後初めてロシア語に触れた本コースの学生複数が、在学中にロシア語検定試験(ロシア連邦教育省認定の国家試験)の第 1 レベル合格、ロシア語能力検定試験(ロシア語能力検定委員会主催の日本国内の試験)の 2 級合格といった大きな成果を上げています。また、このロシア語能力は卒業後のモスクワ音楽院留学時に大いに役立ちます。本コース在学学生・卒業生のロシア語能力は、モスクワ音楽院の先生方にも定評があります。

Q9. 本コースからモスクワ音楽院に留学した人はどれくらいいますか？

A9. 開講以来 13 名の学生が音楽院に留学、すでに 7 名が大学院を修了しています。難関であるモスクワ音楽院大学院合格率は、国内で本コース卒業生がトップといえるでしょう。これはまさに、本コース在学中にモスクワ・メソッドによる徹底指導を受けられること、他にはないロシア語学習システムが取られていることが大きく影響した結果です。

Q10. 在学中にモスクワに行く機会がありますか？

A10. モスクワ研修旅行、短・中期の交換留学、春・夏休み等を利用したプーシキン大学での語学研修など、モスクワに行く機会が多く設けられています。

Q11. 教職は取れますか？

A11. 指定の科目を履修し、単位を修得すれば、教職を取ることができます。本コースの学生が取得可能な資格は、中学校教諭一種免許(音楽)、高等学校教諭一種免許(音楽)、博物館学芸員です。

Q12. 在学中に舞台経験は積めますか？

A12. 本コースの前期・後期実技試験、年間 5~6 回行われる学内公開演奏会等は、すべて学内のコンサート・ホール(大・小 2 つのホール)で行われます。独奏曲に限らず、協奏曲、室内楽等の発表の場も与えられます。協奏曲はロシア人教員が伴奏することが多いため、学生は一流の演奏家との舞台共演を頻繁に実現

することができます。このように、日頃の練習成果は必ず公の場で披露されることになっています。これは、舞台経験を重視するモスクワ・メソッドの特徴でもあります。実際、モスクワ音楽院在学生の期末試験は、自分でオーガナイズしたコンサート形式となっており、本コース出身で現在モスクワ音楽院や同大学院に留学中の先輩たちも、必ずこういった試験を受けています。本コース在学中の学内公開演奏会での経験は、留学時にも大いに役立ちます。

Q13. 国際コンクール出場時のサポート体制はありますか？

A13. 国内外を問わずコンクールに挑戦する学生を応援します。それぞれの学生に応じたコンクールや曲の選び方、レパートリー、ステージマナーに至るまで、きめ細やかなサポートを行います。また、国際コンクール出場のための費用なども相談に応じます。(要担当教師の推薦)

Q14. たくさんのロシア人教員がいるようですが、常に全員が倉敷に住んでいるのですか？

A14. モスクワ音楽院派遣教員は交代制のため、教員リストに掲載されている全員が常に倉敷に滞在しているわけではありません。基本的には、年度始めの4月と年度末の1、2月に主任クラスの教授が来日し、その間をその他の教授・准教授らが担当という体制です。教員が交代することを不安に思う学生もいるかもしれませんが、レッスンカルテをつけることにより、個々の学生データが保存・継承されているため、常にその学生に適したレッスンが継続されています。さまざまな教員から指導を受けられるということは、逆により刺激になるでしょう。モスクワ音楽院本校では、多忙な担当教員に自ら連絡を取ってレッスンを取り付けることから始めなければなりませんが、本コースでは60分×週2回のレッスンが確保されています。これはモスクワ音楽院の学生もうらやむほどの贅沢な環境です。

Q15. ロシア人の先生方は、どんな学生に入学してもらいたいと考えていますか？

A15. 基本的には、自分にあった勉強の仕方を自ら考えることのできる自発的な学生、楽しみながら練習に取り組める学生など、先生に頼りきりにならず、能動的に動ける学生が望まれます。

Q16. 卒業生の主な進路を教えてください。

A16. 主な進学・就職例は下記の通りです。

進学) モスクワ音楽院研究科／モスクワ音楽院大学院ピアノ科、ヴァイオリン科、伴奏科／

くらしき作陽大学音楽専攻科／日本大学大学院芸術学研究科

就職) くらしき作陽大学音楽学部(伴奏要員)／及川音楽事務所(所属アーティスト)／音楽教室主宰／

サントリーパブリシティ株式会社(サントリーホール)他

【 生活について 】

Q1. くらしき作陽大学へのアクセスは？

A1. くらしき作陽大学は、新幹線の停車駅・新倉敷駅から徒歩 15 分、山陽自動車道の玉島ICから車で 5 分という利便性の高い場所に位置しています。美観地区や大原美術館など観光名所が集まる倉敷駅までは、在来線でわずか 8 分です。また、各地から新倉敷へのアクセスも、飛行機(岡山空港発着便)や新幹線を利用すれば非常に便利です。

例) 飛行機利用 : 東京から 1 時間 20 分、札幌から 2 時間 10 分、鹿児島から 1 時間 15 分、
那覇から 1 時間 45 分 *岡山空港～新倉敷駅までの移動は、バス+JR利用で約 1 時間です。
新幹線利用 : 東京から 3 時間半、名古屋から 1 時間 50 分、新大阪から 1 時間、広島から 45 分、
博多から 2 時間

Q2. 大学周辺の環境を教えてください。

A2. Q1の回答にあるように、利便性の高い場所に位置しながら、大学周辺は静かで自然豊かな環境が広がっています。一方、新倉敷駅周辺には、スーパーマーケット、薬局、レストラン、電気店、郵便局、銀行など生活に必要な施設が揃っています。落ち着いた環境の中で勉強に集中しながら、不便のない生活を送ることが可能です。

Q3. 寮やアパートの家賃、部屋で楽器は弾けるかなど、住居環境について教えてください。

A3. 寮はありませんが、大学周辺の不動産業者が音大生の条件に合う多くの物件を取り揃えています。また、倉敷市が土地を提供し、中国銀行が管理・運営する『安全・安心・快適な女性専用ワンルームマンション』倉敷ライフ・キャンパス(家賃 39,000 円～)の利用も可能です。「倉敷ライフ・キャンパス」の各部屋にはエアコンや洗濯機などの設備が整っており、24 時間楽器の練習が可能な完全防音仕様室(家賃 60,000 円程度)も備えられています。一般のアパートは、楽器可の場合で 4～6 万円程度です(*楽器の練習可能時間はアパートによって異なります)。大学には自転車または徒歩で通学できるアパートがほとんどですので、交通費もかからず、都市部での一人暮らし事情と比較すると、大変リーズナブルです。

Q4. アパートでピアノをレンタルするといくらかかりますか？

A4. アップライトピアノで毎月 4,500～6,000 円程度、グランドピアノの場合は毎月 9,000～12,000 円程度が相場のようなようです。大学内で楽器の練習を行いたい場合は、8 時～21 時まで無料で練習棟を利用できます。

Q5. 自宅からアパートにピアノを運搬するといくらかかりますか？

A5. 業者や距離によって異なりますが、例えば、福岡から新倉敷までグランドピアノを運搬する場合は約 10 万円程度かかります。

Q6. 一人暮らしをする場合の生活費の目安を教えてください。

A6. 在学生の1ヶ月の生活費は10~13万円程度です。家賃や食費が安いこと、通学交通費がかからないことが、都市部での一人暮らしに比べて大幅にコストを抑えられるポイントだと思います。

Q7. 学生食堂や購買について教えてください。

A7. 大学内の学生ホールには、食堂、カフェ、書店・購買部などが揃っており、いつも多くの学生でにぎわっています。

Q8. どのようなアルバイトをしている学生が多いですか？

A8. 一般的には、ショップ店員(コンビニ・洋服屋・レストランなど)が挙げられますが、音楽を専攻する学生ならではのアルバイトとしては、結婚式場等での演奏、子どもを対象としたレッスン、演奏会スタッフなどがあり、大学での斡旋もあります。また、ボランティアとして地域の学校の音楽鑑賞会に出演したり、施設での依頼演奏に参加したりする学生もいます。

Q9. サークルやクラブにはどんなものがありますか？

A9. 代表的なものとして、文科系では、軽音楽部、ウインドアンサンブル、ブラスバンドなど、体育系では硬式テニス部、バドミントン部、バレーボール部などが挙げられますが、この他にも多数あります。

Q10. 倉敷市にはどのような文化施設がありますか？

A10. 倉敷市にはさまざまな文化施設がありますが、倉敷市民会館、倉敷市芸文館といったコンサートホールは、2003年に倉敷市で開催された「第5回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクール」の会場となった充実した施設です。美術館、博物館、図書館その他の施設や観光案内については、こちらをご覧ください。

<http://kankou-kurashiki.jp/>